



## ベネッセ総合学力テスト（7月4日実施）に向けて

部活動が再開し、委員会・係決めも終わり、面談も行われるなど、いよいよ本格的な高校生活が始まる中で、今週末には初めての総合学力テストがありますが、このテストが高校に入学して初めて受ける模擬試験となる人が多いのではないのでしょうか。埼玉県では、ほとんどの中学生が一度は北辰テストを受けているので、模擬試験がどのようなものであるかは知っていると思いますが、改めて模擬試験を受ける意味についてお伝えします。

模試を受けることには、いくつかの意味があります。

- ① 現時点での自分の実力を確かめることができる
- ② 自分の苦手分野を発見することができる
- ③ 模試を問題集として活用する

まず①については、全国で何十万人という生徒が受験することによって、全国の中で自分が何位であるか、県内で、校内ではどのあたりに位置しているのかを知ることができます。重要なのは、ただ順位に一喜一憂するのではなく、「最終的な目標（志望校への合格）までどのくらいの距離があるか」を知ることです。また、学んだこと、知っていることをきちんと生かされたかどうか、限られた時間の中で最大限自分の実力を発揮することができたかどうかを分析することによって、今後の勉強の方針に反映させることができます。

次に、②については、模擬試験が校内の定期考査と異なる点として、定期考査では授業で学んだことを反復・応用できるかどうか、「きちんと復習すれば満点も期待できる問題」が出題されるのに対して、模試では本番の入試を想定したレベル・範囲の問題が出題されるため、「そもそも満点は期待できない、点が取れない人を落とすための問題」が出題されます。つまり、「模試で答えられなかった問題＝本番で同じような問題が出たときに答えられない問題」ということになります。逆にいえば、答えられなかった問題を復習すれば、本番でかなりの効果を発揮します。模試を受けたら、記憶が鮮明なうちに（試験を受けた後なるべく早く）復習しましょう。

③は、②と関連する部分が大いのですが、模擬試験に出題される問題は、受験のプロ達が過去の入試問題を分析した上で、よく出題される傾向にある「良問」であることが多いです。また、模試の受験後に渡される解答は、市販の問題集や参考書に比べて解説が丁寧であることが多く、解けなかった問題、苦手分野を克服する上で非常に役立ちます。模試の問題は一度復習して終わりにせず、定期的に復習してください。

さて、長々と模試を受ける意味について書いてみましたが、実は私（S）自身は高校時代にろくに外部の模擬試験を受けておらず、初めて本格的に受けたマーク式の試験はセンター試験の本番という体たらくでした。けれども、高1の9月に校内で行われた実力テストで、国・数・英の3教科を合計して99点（※300点満点です）という点を取ってしまい「このままではまずい」と、非常に危機感をもちました。その結果を受けて、初めて受験に対する意識が芽生えたように思います（記憶を都合よく美化しています）。

今回の総合学力テストは、高校入学後3か月が過ぎた時点での学力を測定するものであり、おそらく、埼玉県など休校期間が長かった地域の生徒には不利な結果となるでしょう。しかし、どのような結果であっても、目標への第一歩であるにとらえ、今後の学習に生かしてほしいと願っています。